

【人文科学研究科フランス文学専攻】

講義コード	講義名	副題	単位	講義期間	担当教員名(代表者のみ)	備考
D360100101	博士論文指導(フランス文学専攻)		2	集中(通年)	田上 竜也	
M000000110	修士論文(フランス文学専攻)		0	集中(通年)	田上 竜也	
M360100101	修士論文指導(フランス文学専攻)		2	集中(通年)	田上 竜也	
M360200101	フランス語学特殊研究(大学院)		4	通年	松村 剛	
M360202101	◆フランス文学特殊研究(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)	マルセル・ブルースト研究	4	通年	鈴木 雅生	
M360202102	◆フランス文学特殊研究(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		4	通年	鈴木 啓二	
M360300101	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)		4	通年	DELEMAZURE, Raoul	
M360300102	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)		4	通年	中尾 和美	
M360301101	◆フランス文学演習(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)	La poésie de Raymond Queneau	4	通年	MARE, Thierry	
M360302101	◆フランス演劇演習(学部:フランス語圏文化演習(舞台・映像))(大学院)		4	通年	大野 麻奈子	

◆印は大学院授業科目であるが、学部生が履修する場合もある。

講義コード	D360100101	科目ナンバリング	136F202
科目名	博士論文指導(フランス文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Doctoral Thesis		
担当者名	田上 竜也		
単位	2	配当年次	D 1年～3年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

博士論文を遅滞なく完成させるために、資料収集の方法、論文の構成の仕方、具体的なテーマの選び方などを指導する。

到達目標

博士論文を完成できる

授業内容

実施回	内容
第1回	論文の書き方を口頭により指導
第2回	論文の書き方を口頭により指導
第3回	論文の書き方を口頭により指導
第4回	論文の書き方を口頭により指導
第5回	論文の書き方を口頭により指導
第6回	中間発表の準備
第7回	論文の書き方を口頭により指導
第8回	論文の書き方を口頭により指導
第9回	論文の書き方を口頭により指導
第10回	論文の書き方を口頭により指導
第11回	論文の書き方を口頭により指導
第12回	論文の書き方を口頭により指導
第13回	論文の書き方を口頭により指導
第14回	論文の書き方を口頭により指導
第15回	前期のまとめ、レポート
第16回	論文の書き方を口頭により指導
第17回	論文の書き方を口頭により指導
第18回	論文の書き方を口頭により指導
第19回	論文の書き方を口頭により指導
第20回	論文の書き方を口頭により指導
第21回	論文の書き方を口頭により指導
第22回	論文の書き方を口頭により指導
第23回	論文の書き方を口頭により指導
第24回	論文の書き方を口頭により指導
第25回	論文の書き方を口頭により指導
第26回	論文の書き方を口頭により指導
第27回	論文の書き方を口頭により指導
第28回	論文の書き方を口頭により指導
第29回	論文の書き方を口頭により指導
第30回	論文の書き方を口頭により指導

授業方法

院生の提出物の添削や質疑応答

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に自分が抱えている問題を整理しておくこと

成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

面談によるフィードバック

講義コード	M360100101	科目ナンバリング	136F201
科目名	修士論文指導(フランス文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Master's Thesis		
担当者名	田上 竜也		
単位	2	配当年次	M 1年～2年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

修士論文を遅滞なく完成させるために、資料収集の方法、論文の構成の仕方、具体的なテーマの選び方などを指導する。

到達目標

修士論文を完成できる

授業内容

実施回	内容
第1回	論文の書き方を口頭により指導
第2回	論文の書き方を口頭により指導
第3回	論文の書き方を口頭により指導
第4回	論文の書き方を口頭により指導
第5回	論文の書き方を口頭により指導
第6回	中間報告の準備
第7回	論文の書き方を口頭により指導
第8回	論文の書き方を口頭により指導
第9回	論文の書き方を口頭により指導
第10回	論文の書き方を口頭により指導
第11回	論文の書き方を口頭により指導
第12回	論文の書き方を口頭により指導
第13回	論文の書き方を口頭により指導
第14回	論文の書き方を口頭により指導
第15回	前期のまとめ、レポート
第16回	論文の書き方を口頭により指導
第17回	論文の書き方を口頭により指導
第18回	論文の書き方を口頭により指導
第19回	論文の書き方を口頭により指導
第20回	論文の書き方を口頭により指導
第21回	論文の書き方を口頭により指導
第22回	論文の書き方を口頭により指導
第23回	論文の書き方を口頭により指導
第24回	論文の書き方を口頭により指導
第25回	論文の書き方を口頭により指導
第26回	論文の書き方を口頭により指導
第27回	論文の書き方を口頭により指導
第28回	論文の書き方を口頭により指導
第29回	論文の書き方を口頭により指導
第30回	通年のまとめ、レポート

授業方法

院生の提出物の添削や質疑応答

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に自分が抱えている問題を整理しておくこと(一時間)

成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

面談によるフィードバック

講義コード	M360200101	科目ナンバリング	136F101
科目名	フランス語学特殊研究(大学院)		
英文科目名	Studies in the French Language		
担当者名	松村 剛		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 月曜日 4時限 仏文院生室		

授業概要

フランス語の歴史的、地域的な広がりと多様性を理解していただくことを目的とします。そのために必要な道具を紹介し、それらを批判的に活用する練習をしていただきます。

到達目標

履修者各自の研究対象と関連させながら、フランス語の歴史的、地域的な広がりと多様性を理解していただくことを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	概説。
第2回	Le Petit Robert の特徴と問題点。
第3回	Le Petit Robert の批判的読解演習。
第4回	Le Tresor de la Langue francaise の特徴。
第5回	Le Tresor de la Langue francaise の問題点。
第6回	Le Tresor de la Langue francaise の批判的読解演習。
第7回	Dictionnaire des onomatopées の特徴と問題点。
第8回	Dictionnaire des onomatopées の批判的読解演習。
第9回	Dictionnaire des jurons の特徴と問題点。
第10回	Dictionnaire des jurons の批判的読解演習。
第11回	Dictionnaire des regionalismes de France の特徴と問題点。
第12回	Dictionnaire des regionalismes de France の批判的読解演習。
第13回	Franzosisches Etymologisches Worterbuch の特徴と問題点。
第14回	Franzosisches Etymologisches Worterbuch の批判的読解演習。
第15回	総括。
第16回	Le Bon Usage の特徴と問題点。
第17回	Le Bon Usage の批判的読解演習。
第18回	Littre の特徴と問題点。
第19回	Littre の批判的読解演習。
第20回	Huguet の特徴と問題点。
第21回	Huguet の批判的読解演習。
第22回	Dictionnaire du Moyen Francais の特徴と問題点。
第23回	Dictionnaire du Moyen Francais の批判的読解演習。
第24回	Godefroy の特徴と問題点。
第25回	Godefroy の批判的読解演習。
第26回	Tobler-Lommatzsch の特徴と問題点。
第27回	Tobler-Lommatzsch の批判的読解演習。
第28回	Anglo-Norman Dictionary の特徴と問題点。
第29回	Anglo-Norman Dictionary の批判的読解演習。
第30回	総括。

授業方法

講義と演習。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に指示した箇所を読んでおくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):80%(積極的に授業に参加すること。) レポート:20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生のレポートその他は授業内でコメントし、授業の内容に反映させる。

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献コメント

授業時に指示する。

講義コード	M360202101	科目ナンバリング	136F103
科目名	◆フランス文学特殊研究(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
副題	マルセル・ブルースト研究		
英文科目名	Studies in French Literature		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 金曜日 4時限 仏文院生室		

授業概要

20世紀文学の頂点とも言われるブルーストの『失われた時を求めて』、この長大な小説の冒頭部「コンプレー」につづく「スワンの恋」を読む。重要な場面を選んで精読しながら、この作家の特徴を理解するとともに、『失われた時を求めて』という小説の全体像を把握することを試みる。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析してそれを説得的に他者に伝えることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	作家および作品についての解説
第3回	オデットとの出会い (1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第4回	オデットとの出会い (2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第5回	オデットとの出会い (3): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第6回	ヴァントウイユのソナタ I (1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第7回	ヴァントウイユのソナタ I (2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第8回	ヴァントウイユのソナタ I (3): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第9回	恋の発生 (1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第10回	恋の発生 (2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第11回	恋の発生 (3): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第12回	カトレア (1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第13回	カトレア (2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第14回	カトレア (3): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第15回	まとめ
第16回	後期ガイダンス
第17回	幸せな日々 (1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第18回	幸せな日々 (2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第19回	幸せな日々 (3): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第20回	疑惑 (1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第21回	疑惑 (2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第22回	疑惑 (3): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第23回	ヴァントウイユのソナタ II (1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第24回	ヴァントウイユのソナタ II (2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第25回	ヴァントウイユのソナタ II (3): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第26回	恋の終焉 (1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第27回	恋の終焉 (2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第28回	恋の終焉 (3): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第29回	予備日
第30回	まとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、受講者の関心や授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

演習形式の授業であるので、大筋を説明した後は、各自にテキストを分担してもらいながら授業を進める。単なる訳読ではなく、担当した箇所分析やコメントを求め、必要に応じてテキスト外の資料も参照することとなるだろう。最終的には各々の関心のある観点からレポートをまとめてもらう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書

Un amour de Swann,Proust,Larousse,Petits Classiques,2016

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M360202102	科目ナンバリング	136F103
科目名	◆フランス文学特殊研究(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
英文科目名	Studies in French Literature		
担当者名	鈴木 啓二		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 金曜日 3時限 仏文院生室		

授業概要

ボードレールの政治性

ボードレールは、1851年12月のクーデタ以後「非政治化」したと言われる。しかし、彼の書簡等を読む限り、彼の政治に対する関心はクーデタ以後も変わらない。

本授業では、いくつかの研究論文を読みながら、ボードレールの作品と、同時代の政治や政治思想との関わりを考察する。あわせて、より一般的な視点から、文学と政治の関係を考える。

扱う予定の論文は以下の通り(講読する論文及び、講読の順序について、変更する可能性がある)。

1. Gretchen van Slyke, 《 Dans l'intertexte de Baudelaire et de Proudhon : pourquoi faut-il assommer les pauvres ? 》, *Romantisme*, 1984, n°45, p.62-70
2. Dominique Dupart, 《 Suffrage universel, suffrage lyrique chez Lamartine , 1834-1848 》, *Romantisme*, 2007, n°135, p. 9-21.
3. Dolf Oehler, 《 Juin 1848 chez Baudelaire et Flaubert - Modernités et massacres 》, in 1848, Créaphis, Paris, 2002, p. 141-158.
4. Michèle Riot-Sarcey, 《 Que reste-t-il de l'esprit de 1848 ? 》 in *Le procès de la liberté*, Paris, La Découverte, 2016, ch.III, 10.
5. Steve Murphy, 《 Assomons les pauvres ! Le démon du combat 》, *Logiques du dernier Baudelaire*, Champion, 2007, ch. XIII, p.393-432.
6. Bernard Howells, 《 Baudelaire et Giuseppe Ferrari: histoire et dandysme 》, *Etudes baudelairiennes XII*, Neuchâtel, La Baconnière, 1987, p. 99-130.

授業では、随時、学生による研究発表も行う。

到達目標

各人の関心に従って、文学と政治の関係についての意識を明確化する

授業内容

実施回	内容
第1回	学期全体についての説明
第2回	ボードレールとプルードン1
第3回	ボードレールとプルードン2
第4回	ボードレールとプルードン3
第5回	ボードレールとプルードン4
第6回	学生による研究発表 第一回
第7回	ラマルティエヌと2月革命1
第8回	ラマルティエヌと2月革命2
第9回	ラマルティエヌと2月革命3
第10回	ラマルティエヌと2月革命4
第11回	学生による研究発表 第二回
第12回	文学者と6月蜂起1
第13回	文学者と6月蜂起2
第14回	授業の総括
第15回	到達度確認
第16回	学期全体についての説明
第17回	1851年12月のクーデタと文学者たち1
第18回	1851年12月のクーデタと文学者たち2
第19回	1851年12月のクーデタと文学者たち3
第20回	1851年12月のクーデタと文学者たち4
第21回	学生による研究発表 第三回
第22回	散文詩「貧民を撲り倒そう！」読解1
第23回	散文詩「貧民を撲り倒そう！」読解2
第24回	散文詩「貧民を撲り倒そう！」読解3
第25回	散文詩「貧民を撲り倒そう！」読解4
第26回	学生による研究発表 第四回
第27回	ボードレールとジュゼッペ・フェラーリ1
第28回	ボードレールとジュゼッペ・フェラーリ2
第29回	授業の総括

授業方法

講義、テキスト講読、学生による研究発表

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

講読するテキストは事前に読んでおくこと。準備に際してはフランス語の辞書(Grand Robert, TLFなど)にもあたること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		受講者多数で発表の機会が与えられなかった場合にレポートによって評価することがある
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	講読の担当、あるいは研究内容の発表
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に、発表に対するコメントの形で行う

教科書コメント

教材は、各学期一回目の授業で頒布する

講義コード	M360300101	科目ナンバリング	136F104
科目名	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)		
英文科目名	Seminar in the French Language		
担当者名	DELEMAZURE, Raoul		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 木曜日 2時限 仏文院生室		

授業概要

écriture académique en français

到達目標

Ce cours a pour objectif de progresser dans les exercices d'écriture académique en français, l'explication de texte et la dissertation.

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|---|
| 第1回 | Méthode de l'explication de texte. |
| 第2回 | Rimbaud, Sensation. |
| 第3回 | Rimbaud, Sensation. |
| 第4回 | Baudelaire, Parfum exotique. |
| 第5回 | Baudelaire, Parfum exotique. |
| 第6回 | Alain Robbe-Grillet, La Jalousie. |
| 第7回 | Alain Robbe-Grillet, La Jalousie. |
| 第8回 | Beckett, En attendant Godot. |
| 第9回 | Beckett, En attendant Godot. |
| 第10回 | Roland Barthes, La Chambre claire. |
| 第11回 | Roland Barthes, La Chambre claire. |
| 第12回 | Camus, Le Premier homme. |
| 第13回 | Camus, Le Premier homme. |
| 第14回 | Marguerite Duras, Le Ravissement de Lol V. Stein. |
| 第15回 | Marguerite Duras, Le Ravissement de Lol V. Stein. |
| 第16回 | Méthode de la dissertation. |
| 第17回 | Première dissertation (faire un plan) |
| 第18回 | Première dissertation (faire un plan) |
| 第19回 | Deuxième sujet de dissertation (faire une introduction) |
| 第20回 | Deuxième sujet de dissertation (faire une introduction) |
| 第21回 | Troisième dissertation (rédiger un paragraphe) |
| 第22回 | Troisième dissertation (rédiger un paragraphe) |
| 第23回 | Quatrième dissertation (faire une transition) |
| 第24回 | Quatrième dissertation (faire une transition) |
| 第25回 | Cinquième introduction (améliorer la présentation des exemples) |
| 第26回 | Cinquième introduction (améliorer la présentation des exemples) |
| 第27回 | Sixième dissertation (rédiger une conclusion) |
| 第28回 | Sixième dissertation (rédiger une conclusion) |
| 第29回 | préparation de la dissertation finale. |
| 第30回 | Correction de la dissertation finale. |

授業方法

Nous travaillons ensemble pour améliorer les productions écrites.

使用言語

1

準備学習(予習・復習)

Chaque semaine il faut préparer le cours (lire le texte, chercher des exemples pour la dissertation) et participer activement en classe.

成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	100%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

A la fin du premier semestre, il faut rédiger un commentaire de texte en entier.

A la fin du second semestre, il faut rédiger une dissertation en entier.

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les cours 15 et 30 seront la correction en classe des rapports de fin de semestre.

その他

Les textes seront distribués en classe.

講義コード	M360300102	科目ナンバリング	136F104
科目名	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)		
英文科目名	Seminar in the French Language		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 火曜日 5時限 西2-406		

授業概要

フランス語で書かれた言語学関連の論文を読むことで、論文フランス語に慣れると同時に、言語学の第一歩となるような視点を養う。今年度は、主として看板、広告、注意書き、落書きなど公共空間に見られる言葉の考察を深めたい。

到達目標

論文フランス語を通してフランス語の知識を増やすこと、書き言葉のフランス語に慣れること、フランス語らしいフランス語が書けるようになること、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	公共空間における言語表示について(1)看板・広告
第3回	公共空間における言語表示について(2)注意書き・警告
第4回	公共空間における言語表示について(3)落書き
第5回	公共空間における言語に関する論文講読(1)
第6回	公共空間における言語に関する論文講読(2)
第7回	公共空間における言語に関する論文講読(3)
第8回	公共空間における言語に関する論文講読(4)
第9回	公共空間における言語に関する論文講読(5)
第10回	公共空間における言語に関する論文講読(6)
第11回	発表(1)
第12回	発表(2)
第13回	発表(3)
第14回	授業の総括
第15回	予備日
第16回	日本の街中に見られるフランス語
第17回	多言語表記の標識や看板
第18回	公共空間における言語に関する論文の講読(1)
第19回	公共空間における言語に関する論文の講読(2)
第20回	公共空間における言語に関する論文の講読(3)
第21回	公共空間における言語に関する論文の講読(4)
第22回	公共空間における言語に関する論文の講読(5)
第23回	公共空間における言語に関する論文の講読(6)
第24回	公共空間における言語に関する論文の講読(7)
第25回	公共空間における言語に関する論文の講読(8)
第26回	発表(1)
第27回	発表(2)
第28回	発表(3)
第29回	授業の総括
第30回	予備日

授業方法

一方的な講義ではなく、参加者との議論を交えて授業を進めていく。またフランス語で書かれた論文を精読することで、考察を深めると同時に、論文フランス語のスタイルに慣れ、かつフランス語での読解力を養うことを目標とする。定期的に参加者の発表を予定しているため、積極的に議論に参画し、かつ言語調査をする意欲を持っていることが望まれる。参加者の興味によっては、柔軟に授業の内容を変更することもあるので、各自興味と意欲を持って授業に臨んでほしい。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

論文の担当箇所を調べるだけでなく、論文全体を読んで内容を理解するようにしておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートについては、コメント、返却する。

教科書コメント

授業で講読する論文は、授業中に指示する。

参考文献

Les voix de la ville,L.-J. Calvet, Editions Payot & Rivages,1994

Linguistic landscapes,P. Backhaus, Multilingual Matters,2007

ミモロジック,G.ジュネット,書肆風の薔薇,1991

Dire presque la même chose,U.Eco,Le livre de poche,2010

Terminologie(s) et traduction,Manca-Marna Velicu,Peter Lang,2018

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

講義コード	M360301101	科目ナンバリング	136F105
科目名	◆フランス文学演習(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)		
副題	La poésie de Raymond Queneau		
英文科目名	Seminar in French Literature		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 木曜日 3時限 仏文院生室		

授業概要

Chacun connaît l'importance du romancier Raymond Queneau (1903-1976) dans la littérature de la seconde moitié du XXème siècle. D'ordinaire, pourtant, c'est plus au romancier qu'on pense, à l'expérimentateur, au co-fondateur de l'OULIPO, voire au satrape du Collège de 'pataphysique ou au membre de l'Académie Goncourt qu'à l'auteur d'une douzaine de livres de poèmes, lesquels récapitulent pourtant toutes ces facettes de l'écrivain.

Nous nous intéresserons donc à cette partie relativement méconnue, sinon pour quelques chansons indémodables ("Si tu t'imagines..."), et tâcherons de l'aborder sous chacun des aspects qui en constituent la richesse.

到達目標

Comme toujours, l'essentiel du cours consistera en lectures et en explications de texte, au cours desquels je pourrai aborder des questions plus techniques (de prosodie et de versification) ou plus théoriques (concernant la question des formes et celle de l'adéquation du langage au monde).

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|---|
| 第1回 | Le cours sera divisé en quatre parties. La première s'intitule "Les formes du poème". |
| 第2回 | Les formes du poème 2, questions de prosodie et de versification. |
| 第3回 | Les formes du poème 3, questions de prosodie et de versification (suite). |
| 第4回 | Les formes du poème 4, questions de prosodie et de versification (suite). |
| 第5回 | Les formes du poème 5, l'invention du nouveau. |
| 第6回 | Les formes du poème 6, l'invention du nouveau (suite). |
| 第7回 | Les formes du poème 7, l'invention du nouveau (suite). |
| 第8回 | La parole en poésie 1. |
| 第9回 | La parole en poésie 2, le néo-français. |
| 第10回 | La parole en poésie 3, le néo-français (suite). |
| 第11回 | La parole en poésie 4, le néo-français (suite). |
| 第12回 | La parole en poésie 5, poème ou chanson. |
| 第13回 | La parole en poésie 6, poème ou chanson (suite) |
| 第14回 | La parole en poésie 7, poème ou chanson (suite) |
| 第15回 | Première récapitulation. |
| 第16回 | La question des genres. |
| 第17回 | La question des genres, modèle ou parodie. |
| 第18回 | La question des genres, modèle ou parodie (suite). |
| 第19回 | La question des genres, modèle ou parodie (suite). |
| 第20回 | La question des genres, le classicisme en projet. |
| 第21回 | La question des genres, le classicisme en projet (suite). |
| 第22回 | La question des genres, le classicisme en projet (suite). |
| 第23回 | Rire ou ne pas rire. |
| 第24回 | Rire ou ne pas rire (suite). |
| 第25回 | Rire ou ne pas rire (suite). |
| 第26回 | Rire ou ne pas rire (suite). |
| 第27回 | Rire ou ne pas rire (suite). |
| 第28回 | Rire ou ne pas rire (suite). |
| 第29回 | Rire ou ne pas rire (suite). |
| 第30回 | Rira bien qui rira le dernier (deuxième récapitulation). |

授業方法

Une semaine avant chaque cours, j'indiquerai le texte sur lequel nous travaillerons la fois suivante et, éventuellement, en distribuerai la photocopie.

使用言語

1

準備学習(予習・復習)

Lire le texte, si possible le comprendre. Eventuellement y réfléchir.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	Ces "rapports" seront en fait des exposés oraux.
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Ces exposés, délivrés en français, auront la même forme que le cours lui-même : le commentaire littéraire d'un texte, en l'occurrence un poème ou un extrait de poème que j'aurai préalablement chargé l'étudiant d'expliquer.

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

(Cette rubrique est complètement idiote ! A-t-on jamais vu un professeur ne rien dire au moment où il rendait un travail ou reprenait un exposé ?)

教科書

Oeuvres complètes 1 : Bibliothèque de la Pléiade, Raymond Queneau, Gallimard, 1989, 2-07-011168-7

教科書コメント

Je puis difficilement exiger que les étudiants achètent un livre aussi cher ! Aussi procéderons-nous souvent au moyen de photocopies (mais chut ! il ne faut pas le dire !).

講義コード	M360302101	科目ナンバリング	136F106
科目名	◆フランス演劇演習(学部:フランス語圏文化演習(舞台・映像))(大学院)		
英文科目名	Seminar in French Theater		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	通年 水曜日 2時限 仏文院生室		

授業概要

昨年も扱ったジョルジュ・フェドー(Georges Feydeau)の作品を読み解いていく。今年度は初期のモノローグ作品の抜粋を中心に読む予定だが、まずは中期以降の作品の抜粋から始めることになるだろう。作品によっては映像資料も数種類あるので、抜粋部分を閲覧、比較しながらテキストを読み進める。

到達目標

フェドー作品を読むことによって、フランス20世紀演劇の流れを理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	Georges Feydeauについて
第2回	作品1の抜粋を読む
第3回	同上
第4回	同上
第5回	同上
第6回	同上
第7回	同上
第8回	同上
第9回	同上
第10回	同上
第11回	作品2の抜粋を読む
第12回	同上
第13回	同上
第14回	同上
第15回	第一学期のまとめ
第16回	作品3の抜粋を読む
第17回	同上
第18回	同上
第19回	同上
第20回	同上
第21回	同上
第22回	同上
第23回	作品4の抜粋を読む
第24回	同上
第25回	同上
第26回	同上
第27回	同上
第28回	同上
第29回	同上
第30回	1年間のまとめ

授業方法

受講者はそれぞれ指示された担当箇所について訳読し、教師はそれについて補足説明をする。教師が指定した事項について調べて発表するという小課題を課すこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教師が準備したテキストを予習してくる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポート返却時には改良点などをコメントする。

教科書コメント

教室での指示に従うこと。